

中間評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会 平成23年10月28日(金)

研究課題	南アルプスにおけるニホンジカによる高山植物への影響と保護対策および個体数管理に関する研究	
研究期間	平成22年度～24年度	
	評価項目	平均点
	研究の進捗状況	3.4
	研究内容の妥当性	3.4
	目的達成の可能性	3.2
	期待される研究成果	3.6
	研究継続の必要性	3.6
	総合評点	3.4
<p>計画に基づき高山植物の食害状況調査、絶滅が危惧される高山植物の組織培養を利用した増殖技術の確立、高山植物の遺伝的多様性について成果を上げている。</p> <p>ミヤマハナシノブはダケカンバ林内では、シカの食害によって減少している可能性を示唆するデータが得られているが、生物の減少は1つの要因のみでは説明できないことが多い。地球温暖化や昆虫類との関係も視野に入れて欲しい。また、ミヤマハナシノブの組織培養による栽培の成功は評価でき、他の絶滅危惧種への応用も期待される。</p> <p>ニホンジカの生体捕獲と飼育技術に関する研究は遅れているが、4頭のシカが捕獲出来たことから、今後の成果が期待される。また、その先の問題として、流通の可能性や食材としての提供方法も含めて考えてもらいたい。</p> <p>総合的な研究となっているが、3年の限られた期間であるため、焦点を絞り総花的な研究に終わらないことを望む。</p>		